

「九条の会の声明」

2021年11月15日

「九条の会」が11月12日に、「総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて」と題する声明を出した。全文を転載したい。

〈10月31日に衆議院議員選挙が行われ、自民党は議席を減らしたものの単独過半数を維持し自公政権の存続が決まりました。維新の会の大幅議席増により自公と維新を合わせた改憲勢力は334議席となり、衆議院の3分の2を超える議席を獲得した結果、改憲問題は、新たな局面を迎えました。

岸田文雄首相は、自民党総裁選の最中から「任期中の改憲実行」、「敵基地攻撃能力」保有の検討を繰り返し表明しました。それを受けて総選挙に向けての自民党公約も、「敵基地攻撃能力」保有、防衛力の大幅強化と並んで、「早期の憲法改正」の実現を明記していましたが、総選挙の結果を踏まえて、岸田政権は、安倍政権以来の改憲策動の強化に踏み切る構えです。

岸田政権がまず手をつけようとしているのは、安倍・菅政権が推進した9条破壊の加速化です。対中国の軍事同盟強化を目指した「国家安全保障戦略」と「防衛計画の大綱」の改定を来年末までに強行し、中国を念頭においた「敵基地攻撃能力」の保有、日米共同演習の強化、そして辺野古基地建設強行などを推し進めようとしています。

同時に、岸田自民党は、憲法9条明文の改憲にも踏み込むべく、臨時国会における憲法審査会での改憲案討議入りを狙っています。維新の会松井一郎代表の「来年参院選と同日に改憲国民投票を」という発言や国民民主党との憲法審査会毎週開催合意は、こうした自民党の明文改憲への策動を応援するものです。

しかし、日米軍事同盟強化と改憲という途は、米中の軍事対決・挑発を激化させ、日本と東北アジアの平和の実現に寄与するどころか、それを遠ざけるものです。明文改憲、9条破壊の策動を阻止しなければなりません。

9条の会をはじめとした市民の草の根からの運動は、自民党などによる改憲の企図を阻み続けてきました。とりわけ、安倍政権の下、衆参両院で改憲勢力が3分の2を占めて以降も、市民と野党の共闘の頑張り、幾次にもわたる全国統一署名運動、それに鼓舞された立憲野党の奮闘により憲法審査会での改憲案審議を行わず、19年参院選では改憲勢力3分の2を打ち破って安倍改憲を挫折に追い込みました。来年の参院選に向けた新たな改憲の動きに待ったをかけるのも、この市民と野党の共闘の力以外にはありません。

この力に確信を持って、市民の皆さんが、改憲と9条破壊の阻止のため、決意を新たに立ち上がられることを訴えます。〉

衆議院の選挙結果は、自民党は単独過半数の議席を維持し、野党共闘で飛躍を期待された立憲民主党は議席を減らし、地方政党と言われた日本維新の会が4倍近い議席を獲得した。私は今回の選挙から、三つのことを思う。一つは、投票率の低さである。半数近い人々が棄権したが、現状でいいと思っているのか。投票に行っても変わらないと思っているのであろうか。棄権は、現状肯定の意思表示になる。二つ目は、民主主義が後退することである。政権交代などは望むべくもないが、与野党が伯仲する状況を期待していた。緊迫した国会運営でなければ、自民党の虚偽と隠ぺいが続き、民主主義は遠のく。三つめは、九条の会の声明のように、維新の会に後押しされて、憲法改定の機運が高まり、軍拡に向かうのではでないかと危惧する。人殺しの戦争を解決手段とせず、平和に共存する道を模索することが世界に誇る日本の憲法の核心で、これを壊してならないと思っている。